

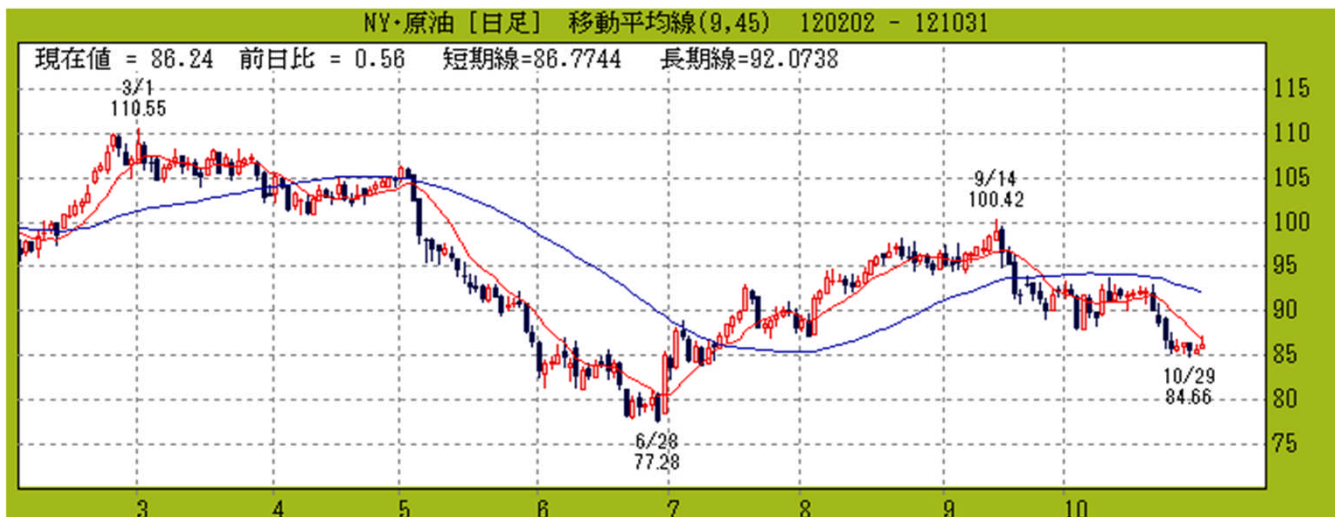


# 週刊原油

世界の原油情報がここに凝縮されています。  
毎週木曜日午後発行



発行日 : 2012/11/1



## 原油価格85ドル前後で横ばい中

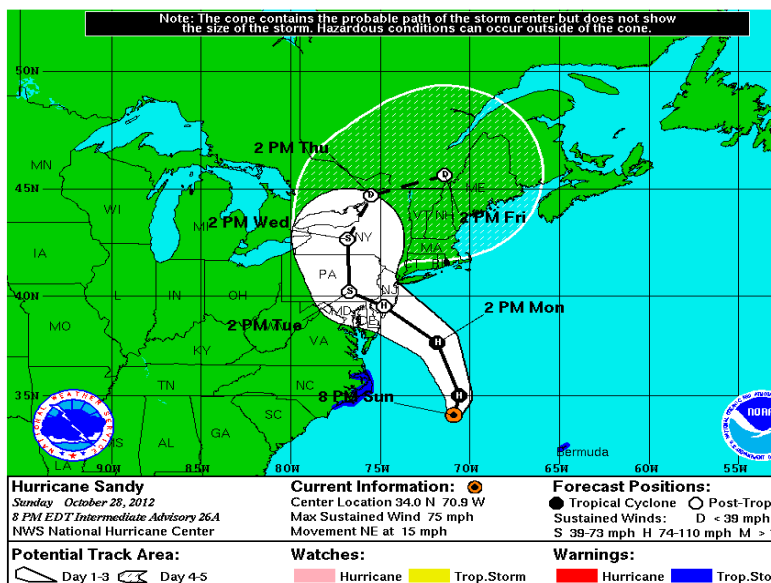
10月31日のNY原油12月限は0.56ドル高の86.24ドル。ハリケーン通過後の企業活動再開期待から、続伸した。ハリケーン「サンディ」の影響で中止されていた立会取引はこの日、3営業日ぶりに再開された。米東海岸を襲ったハリケーンの通過に伴い、停止していた企業活動が順次再開を始め、被害地域での復旧作業が進む中、原油の精製・消費回復への期待が買いを誘った。ただ、朝方まで堅調だったユーロが対ドルで軟化し、ドル建ての原油相場に割高感が戻ったほか、シカゴISM（サプライ管理協会）がこの日発表した9月のシカゴ地域の景況指数（シカゴPMI）が49.9と、前月から上昇したものの51.0との市場予想（ロイター通信調べ）を下回ったため、原油は取引後半にかけてやや上値を削る展開となった。前日々に発表された米石油協会（API）の週報では、前週までの原油在庫が前週比211万6000バレル増と大幅な積み増しとなった一方、ディスティレート（留出油）は258万7000バレル減の取り崩しとなった。

## TOPICS 熱帯低気圧Sandyの爪あと

熱帯低気圧Sandyは月曜日から火曜日にかけてニューヨーク周辺の東海岸を襲い、約2億ドルの経済的損害を与えてカナダに去った。ニュージャージー州の海岸では高波が押し寄せて洪水となり、64人の死者が確認されている。

米国東海岸の3分の2以上の石油精製設備は稼働を停止し、日量268,000バレルの能力を持つニュージャージー州のPhillips 66 Bayway石油精製設備は、停電と洪水被害を受けて、早くても稼働開始は来週になる見込み。

ニューヨークやニュージャージー、ペンシルバニア他13州政府は改質ガソリン不足により、従来型のガソリン使用を認めるよう環境基準を緩めることを環境省の了承を得て通知した。ガソリンスタンドには改質ガソリンを求めて長い行列ができたという。



TOPICS イランを除く石油と石油製品の各国の生産状況 by EIA (米エネルギー情報局)

★ 2012年9月と10月の世界の石油消費量は、少し石油生産量を上回った。そのため日量60万バレルの在庫が減少した。

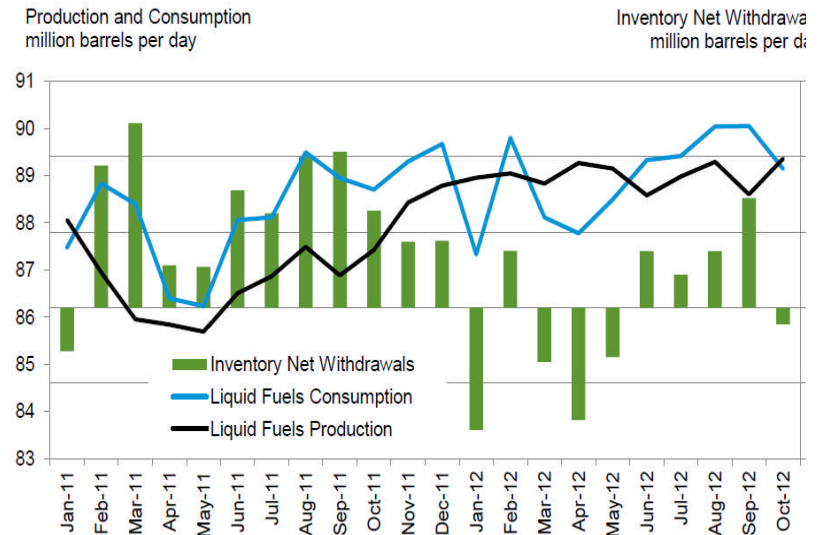
しかし、2ヶ月を通算すると、9月の在庫減少は、10月の在庫増加によって相殺され平均60日ある原油在庫は均衡を保っている。ブレント原油先物価格は10月23日までの週は平均111ドルで2ヶ月前の8月24日までの週の価格から比べると4ドル下落している。

★ 9月は米国のドライブシーズンの終わりであり、中近東の電力発電向けの石油需要も減少し、欧州の季節的変化もあり、世界の石油需要は減少傾向を続け、米国の需要は灯油の生産時期となり増加しているが、10月には日量90万バレル減少したと思われる。

★ 2012年9月と10月のイランを除く世界の石油需要を、EIAは8610万バレルと推定している。同時期のイランを除く世界の石油生産量は、8370万バレルであり、2009年～2011年の3年平均よりも370万バレル多い。世界の生産量は、この間に増加しているがその主な理由は、OPECの増産と北米の原油生産の増加である。例えば、米国は2012年9月～10月に130万バレルの原油を生産し、過去3年間の平均よりも14%多い。

世界の石油生産と消費及び、在庫の変化 (2011年1月～2012年10)

Figure 1. World Liquid Fuels Production and Consumption and Net Inventory Withdrawals, January 2011-October 2012



Source: U.S. Energy Information Administration.

9月と10月の世界の石油需給と価格動向 ①

単位：日量百万バレル	2012年9月	2012年10月	2012年9月/10月平均	2011年9月/11月平均	2009年～11年平均
<b>生産</b>					
OECD	22.0	22.4	22.2	21.6	21.4
米国	10.8	11.2	11.0	10.3	9.7
カナダ	3.8	4.0	3.9	3.7	3.5
メキシコ	3.0	3.0	3.0	2.9	3.0
北海	2.8	2.8	2.8	3.2	3.7
その他OECD	1.5	1.5	1.5	1.6	1.6
非OECD	66.6	66.9	66.8	65.5	64.7
OPEC	36.5	36.6	36.6	35.2	34.6
原油生産	30.8	30.9	30.9	29.9	29.6
その他石油生産	5.7	5.7	5.7	5.3	5.1
旧ソ連邦	13.1	13.4	13.2	13.2	13.1
中国	4.4	4.4	4.4	4.2	4.2
その他非OECD	12.6	12.5	12.6	12.9	12.7
世界生産合計	88.6	89.4	89.0	87.2	86.1
非OPEC生産合計	52.1	52.7	52.4	52.0	51.4

単位：日量百万バレル	2012年9月	2012年10月	2012年9月/10月平均	2011年9月/11月平均	2009年～11年平均
<b>在庫取り崩し</b>					
米国	+0.1	+0.3	+0.2	+0.4	+0.0
その他OECD	+0.5	▲0.2	+0.1	+0.5	+0.1
その他在庫取り崩しバランス	+0.8	▲0.4	+0.2	+0.7	+0.6
合計在庫取り崩し	+1.5	▲0.2	+0.6	+1.7	+0.7

単位：日量百万バレル	2012年9月	2012年10月	2012年9月/10月平均	2011年9月/11月平均	2009年～11年平均
<b>消費</b>					
OECD	45.6	45.2	45.4	45.9	45.9
米国	18.5	18.8	18.7	18.9	19.0
米国領	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
カナダ	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2
欧州	14.5	14.1	14.3	14.7	14.5
日本	4.4	4.3	4.3	4.3	4.4
その他OECD	5.6	5.4	5.5	5.5	5.5
非OECD	44.5	43.9	44.2	42.9	40.9
旧ソ連邦	5.0	5.0	5.0	4.8	4.5
欧州	0.8	0.8	0.8	0.8	0.7
中国	10.5	10.3	10.4	9.8	0.3
その他アジア	10.2	10.3	10.2	10.2	9.8
その他非OECD	18.0	17.6	17.8	17.4	16.6
世界消費合計	90.0	89.1	89.6	88.8	86.7

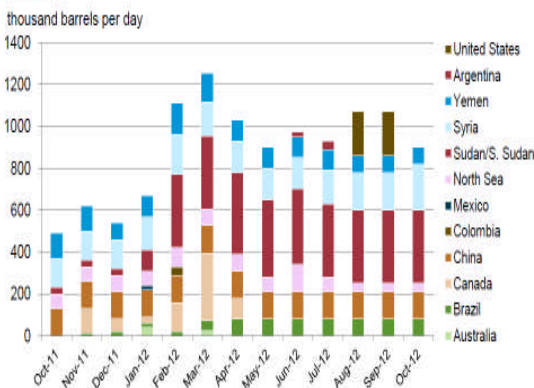
単位：日量百万バレル	2012年9月	2012年10月	2012年9月/10月平均	2011年9月/11月平均	2009年～11年平均
<b>期末在庫</b>					
米国	1,098	1,087	1,092	1,079	
その他OECD	2,637	2,633	2,635	2,649	

## 9月と10月の世界の石油需給と価格動向 ②

★ OPEC諸国の原油生産量は、過去数年増加しており、ことにリビアとイラクで顕著である。またサウジアラビアは、高い水準で生産を継続している。非OPEC諸国の9月と10月の生産量は、昨年水準より日量40万バレル増となっている。主に北米の増産、それもタイトオイル（シェールオイル）によるものである。非OPEC諸国における予期せぬ生産の停止はハリケーンアイザックが襲来した米国のメキシコ湾の生産停止等がある。

### 予期せぬ非OPEC諸国の生産障害（2011年10月～2012年10月）

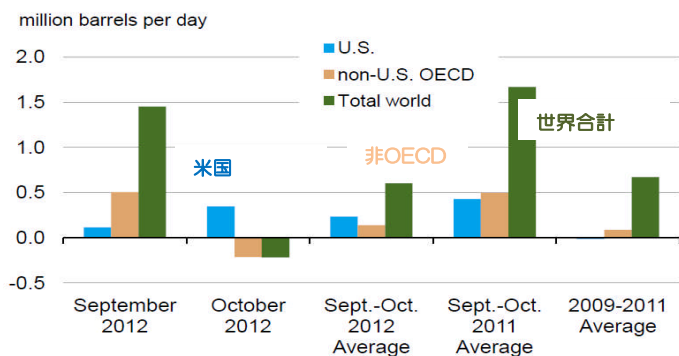
Figure 2. Estimated Unplanned Production Disruptions Among non-OPEC Producers, October 2011 - October 2012



★ 9月と10月の原油価格は前二ヶ月と比べると、比較的狭いレンジで動いた。5月に6月には原油価格は急落し、その後7月と8月には上昇した。ブレント価格のバックワーテーション（期近高の期先安）は変わらず二ヶ月前より期近物のタイト感が強まっている。10月23日までの週の期近と13ヶ月先との価格差は6.02ドルで二ヶ月前野8月24日の5.86ドルに比べて少し上昇している。

### Figures 世界の石油在庫の取り崩し

Figure 5. Global Total Liquids Inventories Net Withdrawals



Source: U.S. Energy Information Administration.

単位：日量百万バレル	2012年9月	2012年10月	2012年9月 ／10月平均	2011年9月 ／11月平均	2009年～ 11年平均
世界の石油生産	88.6	89.4	89.0	87.2	86.1
世界の石油消費	90.0	89.1	89.6	88.8	86.7
バイオ燃料生産量	2.1	2.0	2.0	2.0	1.8
バイオ燃料消費量	1.8	1.8	1.8	1.8	1.7
イランの石油生産	3.2	3.2	3.2	4.2	4.2
イランの石油消費	1.7	1.7	1.7	1.7	1.8
イラン以外の石油生産	83.2	84.2	83.7	81.0	80.1
イラン以外の石油消費	86.6	85.7	86.1	85.3	83.3
生産マイナス消費	-3.4	-1.4	-2.4	-4.4	-3.2
イランを含む世界の在庫変動	1.5	-0.2	0.6	1.7	0.7
OECD諸国の推定在庫水準	2,637	2,633	2,635	2,649	
OPEC余剰生産能力	2.0	2.0	2.0	2.7	3.6
WTI原油価格	\$94.56	\$90.64	\$92.77	\$86.01	\$78.94
ブレント原油価格	\$113.03	\$112.26	\$112.68	\$109.36	\$84.64
改質ガソリン価格	\$3.00	\$2.83	\$2.92	\$2.70	\$2.21
WTI1／13ヶ月先物比	▲\$0.69	▲\$2.13	▲\$1.35	▲\$1.93	▲\$5.59
ブレント1／13ヶ月先物比	+\$6.35	+\$6.83	+\$6.57	+\$5.81	▲\$3.23

★ 世界の余剰生産能力は、歴史的な水準からすれば比較的タイトな状態が続いている。この2ヶ月の余剰生産能力は約200万バレルと思われる。EIAは余剰生産能力の予測を7月～8月の頃の予測の240万バレルから180万バレルに下方修正する。これはサウジアラビアとアラブ首長国連邦（UAE）が増産を継続していることによる。これにはイランの余剰生産能力は含まない。これは、米国や欧州によるイランに対する経済封鎖によりイランが販売できなくなったものも該当する。

### 原油の期近物価格

Figure 3. Front Month Crude Oil Futures Prices

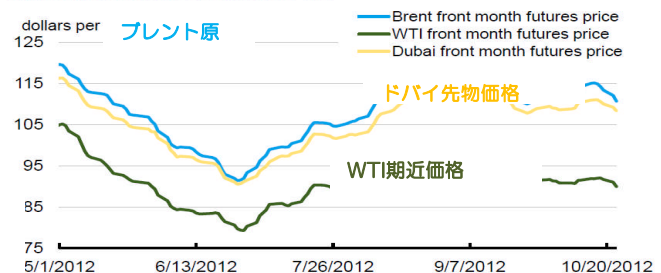
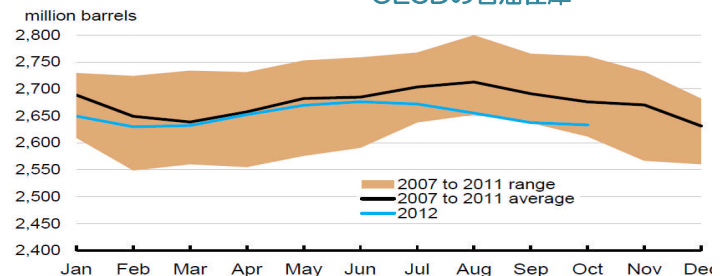


Figure 6. OECD Total Liquid Fuels Inventories OECDの石油在庫



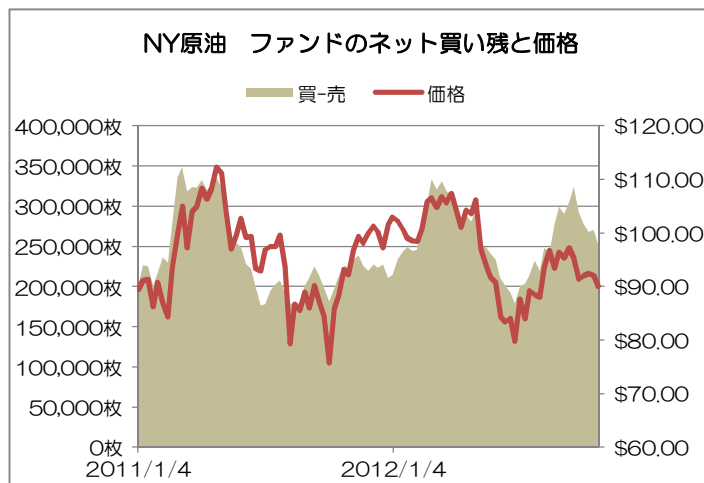
Source: U.S. Energy Information Administration.

★ このレポートは法律代1245（d）（4）（A）に基づいてEIAにより議会に提出される発行の二ヶ月前のイラン以外の石油及び石油製品需給動向と価格に関する、2012会計年度に発行される5回目の資料であり、財務省その他の情報ソースの協力を得て作成されたものである。



## TOPICS 原油のファンドの建玉

までの週	ネット買い残	増減	価格	価格増減
7月3日	200,585枚	+21,719	\$87.66	+\$7.90
7月10日	203,592枚	+3,007	\$83.91	▲\$3.75
7月17日	214,711枚	+11,119	\$89.22	+\$5.31
7月24日	232,243枚	+17,532	\$88.50	▲\$0.72
7月31日	219,693枚	▲12,550	\$88.06	▲\$0.44
8月7日	247,853枚	+28,160	\$93.67	+\$5.61
8月14日	241,318枚	▲6,535	\$96.68	+\$3.01
8月21日	277,212枚	+35,894	\$93.43	▲\$3.25
8月28日	298,590枚	+21,378	\$96.33	+\$2.90
9月4日	290,525枚	▲8,065	\$95.30	▲\$1.03
9月11日	305,623枚	+15,098	\$97.17	+\$1.87
9月18日	324,005枚	+18,382	\$95.29	▲\$1.88
9月25日	291,887枚	▲32,118	\$91.37	▲\$3.92
10月2日	278,059枚	▲13,828	\$91.89	+\$0.52
10月9日	268,199枚	▲9,860	\$92.39	+\$0.50
10月16日	269,898枚	+1,699	\$92.09	▲\$0.30
10月23日	252,679枚	▲17,219	\$90.05	▲\$2.04



## 今後の予想

9月14日100.42ドルをつけたNY原油価格は、その後急落しとり、10月29日には84.66ドルでようやく下げ止まった感がある。今後はしばらく横ばいではなかろうか。したねは80ドル程度はあるだろうが、上記EIAの需給報告では、9月と10月の2ヶ月の原油需給は、少し供給不足で、在庫が減少したとしている。OPEC等の資料ではその傾向は読み取れないが、CIA等も使って調べた米国議会向けの報告資料であるので、確度は高い資料と思われる。景気悪化が原油需要を押し下げて、供給過剰であるとの認識であったが、思ったほど需給は緩んではいないとのレポートである。それでも、心理的に原油価格が上昇すると思うには抵抗がある環境である。ファンドも先週は売り崩しており、ほぼ4週にわたって売り越しているの、これ以上上がる可能性は減ったとはいえ、上昇するとも思えない。80ドル~90ドルの間で動くのではないだろうか。

掲載される情報は株式会社コモディティー インテリジェンス（以下「COMMI」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMIが作成・表示したのですが、その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMIは保証を行なっており、また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的財産権はCOMMIに帰属し、事前にCOMMIへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物の修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

COMMIが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMIは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

COMMIおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

発行元：



COMMODITY  
INTELLIGENCE

株式会社コモディティー インテリジェンス  
〒103-0014東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目11-3-310  
会社電話：03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692  
メールアドレス：kondo@commi.cc